

コース内容 血液内科

診療科の紹介

当科は城東地区の中核病院として、4年と豊富なスタッフ体制の下、多くの血液疾患の入院・外来診療に当たっている。平成19年以降の実績を図示するが、平成20年8月の無菌床3床が開設と共に診療体制が整い、1日あたりの平均入院患者数25～30名、のべ入院患者数は1000名/月を超えている。平成23年5月には新たに3床増設（計6床）され、さらなる入院患者数の増加が見込まれる。また、平成21年4月には日本血液学会認定研修施設となっており、血液専門医取得のための十分な研修を行う環境が整っている。さらに学会・論文執筆活動を積極的に行っているのも当科の特徴である。

指導医

萩原 政夫 （日本内科学会認定内科医・指導医、血液内科学会専門医・同学会代議員
慶應義塾大学医学部客員講師、総合内科専門医）

井上 盛浩

井脇 康宣 （日本内科学会認定内科医）

華 見 （日本内科学会認定内科医、順天堂大学医学部生化学・生体防御学非常勤医師）

論文発表

「免疫化学療法が奏功し 1 年間に渡る寛解を維持している EBV 関連血球貪食症候群の 1 例」

日本内科学会雑誌 2010. vol99.P157-159

「An unusual case of IgE-multiple myeloma presenting with systemic amyloidosis 2 years after cervical plasmacytome resection」

Int J Hematol 2010. vol92.P381-385

「高齢発症の後天性血友病の 2 症例」

永寿総合病院紀要 2010. vol22.14-19

「再生不良性貧血の加療中に急性呼吸促迫症候群として発症した粟粒結核症の 1 例」

永寿総合病院紀要 2010. vol22.39-34

「低用量リツキシマブ投与が奏功し 1 年間に渡る完全寛解を維持している自己免疫性好中球減少症」

臨床血液 2011.vol52.P63-67

「大腿骨頸部骨折手術後の仮性動脈瘤を契機として発症したクームス陰性自己免疫性溶血性貧血」

臨床血液 2011. vol52.P142-144

学会発表

「下腿骨折手術後の仮性動脈瘤を契機として発症したクームス陰性自己免疫性溶血性貧血の 1 例」

平成 22 年 5 月 内科学会関東地方会

「膀胱原発のび慢性大細胞性 B 細胞リンパ腫の 1 例」

平成 22 年 6 月 内科学会関東地方会

「腫瘍内部に結核性病変が併存した肺 MALT リンパ腫の 1 例」

平成 22 年 7 月 内科学会関東地方会

「クリオグロブリン血症で発症し、難治性の肺障害により不帰の転帰を辿ったリンパ

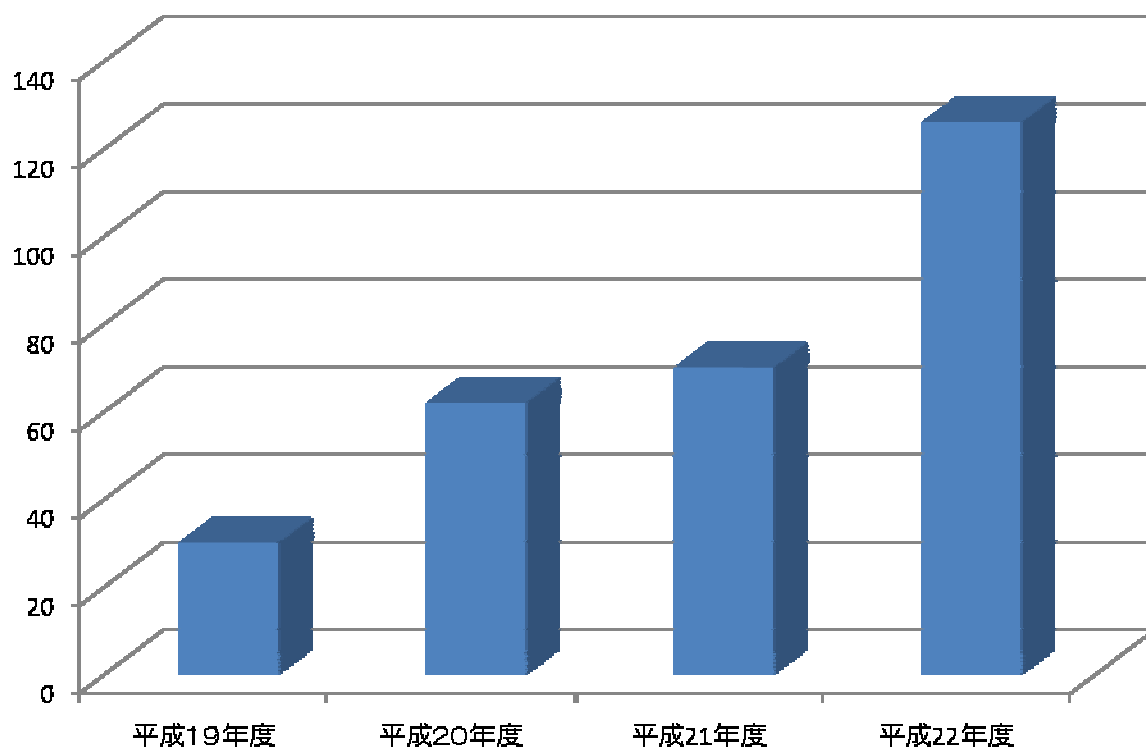
形質細胞性リンパ腫の 1 例」

平成 22 年 9 月 内科学会関東地方会

「肺高血圧症を合併した血管免疫芽球性 T 細胞リンパ腫の 1 例」

平成 23 年 2 月 内科学会関東地方会

新規入院患者数推移



新規入院患者疾患構成

